


これからのまちづくり

ウーブン・シティと連携、田園未来都市すそのを目指して

10月5日(火)市役所で『これからのまちづくり』説明会を開催しました。説明会では、高村市長とゲストにお招きしたトヨタ自動車(株)の子会社であるウーブン・プラネット・ホールディングス(株) (WPH) 代表取締役ジェームス・カフナー氏が、市のまちづくりとウーブン・シティの連携などについて説明を行いました。説明会に引き続き地元住民との意見交換も行われました。市YouTubeチャンネルでも生配信された説明会、主な内容を抜粋して紹介します。

 未来政策課 995-1804



みんなが誇る豊かな田園未来都市すそのの実現に向けて 裾野市長 高村謙二

◆まちの将来像とカーボンニュートラルシティ宣言

市制施行50周年を迎えた当市は、1月に第5次市総合計画を策定しました。富士山、豊かな自然、地下水、田園風景、地域経済を牽引する企業などの『裾野らしさ』と、①住み続けたい②人や企業に選ばれる③快適で安全・安心④協働・連携する⑤未来志向の5つの『まちづくりの方針』のもと、10年後のまちの将来像を『みんなが誇る豊かな田園未来都市すその』としました。

市内には、日本を象徴する富士山をはじめ、田園風景など良い意味での田舎らしさが広がっています。一方で、世界的には、地球温暖化が気候変動を触発し、様々な自然災害が発生しています。気候変動問題は、人類共通の喫緊の課題であり、市民の生命、身体、財産を守り、豊かな自然環境を未来に引き継ぐため、市も地球温暖化対策に取り組んでいかなければなりません。このため、市では2050年までに、温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする都市を目指すカーボンニュートラルシティ宣言を行いました。ウーブン・シティとの連携をはじめ企業からの提案などをいただき、カーボンニュートラルに向けた取組を展開していきます。

◆SDCC構想とウーブン・シティとの連携

市では、昨年3月に市独自の次世代型近未来都市構想であるスノ・デジタル・クリエイティブ・シティ構想 (SDCC構想) を発表しました。豊かな自然環境のもと、クリエイティブマインドを持った市民や企業などがデジタル技術やデータを利活用し、あらゆる分野の地域課題を解決することを目指します。取組の柱として、産業育成や雇用の確保、交通環境の整備など9つの取組の方向性

を掲げています。一番目に掲げているのが、トヨタ自動車(株)が建設を進めているウーブン・シティ周辺などの整備と地域との融合です。

市では、トヨタ自動車(株)がウーブン・シティ構想を発表したのを機に、これまで検討を進めていた北部地域の都市計画にウーブン・シティの新たなエッセンスを加え、北部まちづくり基本構想を策定しました。最寄駅となる岩波駅周辺地区のまちづくりを短期計画と掲げ、従来の移動手段に加え、小型モビリティなどの新しい技術の導入などをウーブン・シティと連携しながら進め、岩波駅周辺の拠点性向上と北部地域の発展につなげていきます。

◆岩波駅周辺地区のまちづくり

岩波駅周辺地区まちづくり基本計画の策定に向け、6月から、市民、商店会、周辺企業に通勤している方など約40人の方々にワークショップに参加していただいています。参加者の皆様の想いを受け止め、まちづくりの計画に反映させていきたいと考えています。

田園未来都市すそのの実現に向けては、財政が厳しい中でも将来への投資は必要と考え、企業版ふるさと納税を活用して推進していきます。現時点で、トヨタ自動車(株)をはじめ複数の企業からご賛同をいただいています。市内の魅力を最大限に発揮させ、市民、事業者の皆さまと共に『住みやすいまちづくり』を行うことで、みんなが誇る豊かな田園未来都市すそのの実現を目指していきます。



Woven City (ウーブン・シティ) は、人々の未来の暮らし、働き方、移動を大きく進化させる先駆的なプロジェクトです。そこに住まう人、そこに生まれるコミュニティの幸せと成長をもっとも大切にする「ヒト中心の街」。日々いとなむ生活を通して未来技術を進歩させる、活きた「実証実験の街」。住民とパートナーの継続的な参加によって成長し、進化し、共に未来を創造し続ける「未完成の街」。この3つのコンセプトをブレない軸とし、「ヒト」、「モノ」、「情報」のモビリティにおける新たな価値と生活を提案し、幸せの量産を目指します。

(Woven City HPから抜粋)

※トヨタ自動車東日本(株)東富士工場跡地に建設予定



ウーブン・シティの取組と裾野市との連携

ウーブン・プラネット・ホールディングス(株)
代表取締役 ジェームス・カフナー氏

◆裾野市とトヨタのつながり

～共に歩んで50年～

1966年、トヨタは自動車性能試験場 (のちの東富士研究所) を設立し、1967年には、乗用車組立工場 (のちのトヨタ自動車東日本東富士工場) が完成しました。以降、東富士工場では752万台の車両を生産し、まさに日本のモータリゼーションをこの裾野の地で支えてきました。また、地域貢献活動として「トヨタスクール東富士」と呼んでいる社会科見学も行ってきており、延べ4万人以上の子どもたちが工場に来てくれました。1971年に裾野市が誕生して以来50年、こうして裾野市とトヨタは共に歩んできました。



◆ウーブン・シティの原点

～未来へ向け新しい価値を生み出し、地域を活性化～

トヨタは、東北の東日本大震災からの復興を支援するため、東富士工場の自動車生産を東北に移管することを決定しました。ウーブン・シティのコンセプトは、そのような中、トヨタの豊田章男社長と、東富士工場を去ることになった従業員との対話から生まれました。それは、その従業員の「みんな東北に移ってクルマづくりを続けたいが、いろいろな事情があって、すべての従業員が引っ越して東北で働けるわけではない」という、自分ではなく仲間のことを思いやった、勇気ある発言がきっかけでした。そこで豊田社長は、「この裾野の地で未来に向けた新しい価値を生み出し、再びこの地域を活性化させていきたい」と話したのです。

◆ウーブン・シティのコンセプト

～「ヒト中心」の街、「実証実験」の街、「未完成」の街～

ウーブン・シティは「ヒト中心」の街、「実証実験」の街、「未完成」の街をブレない軸とし、ヒトが幸せになるための様々な挑戦をしていきます。モビリティ、物流、エネルギー、食・農業など、様々な分野での実証を行い、その技術を地域の皆さまも体験できるようなオープンな街づくりを目指していきます。また、「カーボンニュートラルシティ宣言」をした裾野市と同様、ウーブン・シティも水素エネルギーなどを活用したカーボンニュートラルな街を作っていきます。水素をより身近に感じていただけるように、先進技術を使いながら、様々な実証のアイデアを考えていきます。



◆ウーブン・シティと地域の連携

～岩波駅周辺整備を支援、地域との繋がりを大切に～

裾野市とウーブン・シティが共に発展していくことを目指しています。具体的には、既に企業版ふるさと納税を活用し、岩波駅周辺整備の支援を開始しています。将来的にはe-Palette (イーパレット) などの新しいモビリティを市民の方にも使っていただき、移動をはじめとする地域の課題解決にも貢献していきたいと思っています。そして、この岩波駅周辺がモビリティの拠点として、活気のあるコミュニティになって欲しいと願っています。トヨタが培ってきた50年間の地域との繋がりを大切に、これからの50年をまた共に歩んでいきたいです。

Q 市のまちづくりとウーブン・シティをどのようにつなげようとしているのか。

市長：ウーブン・シティは世界が注目するスマートシティになります。市独自のSDCC構想は、市をデジタルやクリエイティブな発想で変革していくものです。この二つの取組を進めていくことで、市内に双子のスマートシティができることを目指していきます。市内には、心の豊かさを与えてくれる自然があります。人間味あふれる地域でもあります。地域の魅力に磨きをかけ、ウーブン・シティに住む人たちとの交流の機会を楽しむことで、お互いを高め合っていきたいです。

カフナー氏：裾野の地域だけでなく、世界中の様々な問題解決にどうやって貢献できるかを考えています。裾野で行うこの街作りが、日本だけでなく世界的な良い例となることを目指しています。これを成功させるためには、パートナーの皆さま、そして地域の皆さまの支援が必要になると考えています。そのために裾野市とも協力し、企業版ふるさと納税なども活用しながら、この地域の活性化に貢献していきたいです。



Q ウーブン・シティには、どのような人が住むのか。また周辺の住民との関係はどうなるのか。

カフナー氏：家族層や高齢者、発明家など、普通の街と同様に様々なタイプの人がこのウーブン・シティに住むことになると思います。この裾野の地から世界に広がっていくような、多くの人々にとっての幸せを生み出す技術やサービスを作っていきたいです。また私たちは、素晴らしいアイデアを持つ人、発明家になりたいなどの熱意を持った若い人たちを歓迎しています。このような革新的なプロジェクトをこの地で進めていけることを嬉しく思います。

Q 子育て世帯が住みたいと思うまちにするために、もっと教育に力をいれてほしいのですが。

市長：『まちづくりは人づくり』といわれることもできるように、子どもの教育はとても重要な課題と認識しています。SDCC構想では、グローバル人材の育成とICT環境の整備も掲げています。新型コロナウイルスの影響で、リモート環境も急速に普及しました。これまで経験したことがない環境での教育、新しい技術の導入など、教育の面でもウーブン・シティと連携し、子どもたちの健全な育成を図る方策を進めていきたいと思っています。

カフナー氏：実は自分もかつては大学で教授を務めていたこともあり、教育の重要性は認識しています。ヒトの能力を解き放つのはウーブン・シティの目的でもあり、それを新たなテクノロジーで後押ししていきたいと思っています。世界にとってプラスになるようなことをしていきたいと、心の中に情熱を持って働けるヒトを育てていきたいです。

Q ウーブン・シティができることで、交通渋滞や治安の問題など住みにくいまちにならないか。

市長：岩波駅周辺整備の目的は、安全で安心なまちづくりと新たな賑わいの創出です。賑わいを創出しつつ、安全安心のための対策をどのようにしていくのか地域のの人たちと話し合っていきたい。ソフト面では、データを利活用することで健康寿命が延びたとか移動手段が楽になったなど、デメリットを大きく上回るメリットが出るようなSDCCの具現化をウーブン・シティとも連携しながら進めていきたいと思っています。

カフナー氏：「ヒト中心の街」といっているのでも、安全と安心はウーブン・シティの中だけでなく、このコミュニティも含めて考えなければならないと思っています。新しいテクノロジーであるデジタルツインを使いながら、そうした問題に対して良い解決策を見つけたいです。高齢者へのご心配の声もいただきましたが、高齢者はまさにウーブン・シティに住んでいただきたいターゲットの一つです。高齢者の方の感じる課題をより深く理解し、それを解決できるテクノロジーと一緒に作ってきたいです。

Q ウーブン・シティをきっかけに、自ら学ぶ姿勢をより持ちたいと思っている。自分たち学生はどんなことを学んでいけばいいか、メッセージをください。

カフナー氏：SDGsは17番目のゴールの先に「幸せ」という18番目のゴールがある。これは豊田社長が言っていたことですが、私も同様に思っています。これは自分の幸せだけでなく、他者の幸せも含まれます。（質問していただいた）あなたみたいな方に、持続可能なコミュニティやカーボンニュートラル、SDGsの実現に向けてぜひ努力して欲しいと思っています。



私が子どものときは、「大きくなったら何になりたいの?」とよく聞かれましたが、今の若者には「あなたはどうような問題を解決したいの?」と聞くべきだと思います。若い方には、そういったミッションを心に持ち、チャレンジし、勉強し続けて欲しいと思います。このコミュニティのそんな志を持つ皆さまを、私たちは喜んで支援していきたいと思っています。若い方が積極的な姿勢を示してくれて、今日は本当に嬉しく思いました。

事前に受け付けた質問の回答は、市のウェブサイトに掲載しています。

<https://www.city.susono.shizuoka.jp/soshiki/3/1/8/2/16266.html>



WPHから
回答を
いただきました

ウーブン・シティのプロジェクトの進捗状況は?

現在は造成工事を行っていて、2022年（令和4年）から建築工事を開始、2024年（令和6年）～2025年（令和7年）までに工事を行い、その後Phase1（フェーズワン）と呼んでいる最初のエリアをオープンする予定です。その他、今まで公表した内容はウーブン・シティのウェブサイトにもまとめていますので、是非ご覧ください。

トヨタはゼロから裾野の地で事業を行うのではなく、東富士研究所やトヨタ自動車東日本(株)東富士工場がそうしてきたように、地域に根差した良き企業市民でいたいと思っています。

ウーブン・シティは「街」であると同時に、私有地・自己資本で様々な技術の実証実験を行うモビリティカンパニーとしての「テストコース」でもあります。車両のテストコースと同様に、街の開発に関わる内容は多くの関係者がいることから、不確定な状態のままではお伝えできないことも多くあります。

今後とも皆さまにワクワクしていただけるような情報は、決まり次第、随時お伝えしていきたいと思っていますので、楽しみにお待ちください。



- 説明会の様子は、市公式YouTubeチャンネルで見ることができます

[市公式YouTubeチャンネル] <https://www.youtube.com/watch?v=ArUuk8WdYOI>



- ウーブン・シティの詳細情報は、公式ウェブサイト、Facebook（フェイスブック）ページをご覧ください。

[ウーブン・シティ公式ウェブサイト]
<https://www.woven-city.global/jpn>



[ウーブン・シティFacebookページ]
<https://www.facebook.com/WovenCity.JP/>

